

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成24年4月12日(2012.4.12)

【公開番号】特開2011-31102(P2011-31102A)

【公開日】平成23年2月17日(2011.2.17)

【年通号数】公開・登録公報2011-007

【出願番号】特願2010-261260(P2010-261260)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年2月23日(2012.2.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

識別情報を可変表示可能な可変表示手段を備え、所定の始動条件が成立したことにもとづいて識別情報の可変表示を開始し、当該識別情報の可変表示の表示結果が特定の表示結果となったときに大当り遊技状態に制御する遊技機であって、

可変表示に関わる決定に用いられ、所定の数値範囲で数値データを更新する数値データ更新手段と、

始動条件が成立したときに、前記数値データ更新手段が更新した数値データを抽出する数値データ抽出手段と、

前記数値データ抽出手段が抽出した数値データを所定の記憶領域に格納する数値データ格納手段と、

始動条件が成立したときに、前記数値データ抽出手段により抽出された数値データが大当り判定値と合致するか否かの判定を行う始動条件成立時判定手段と、

前記始動条件成立時判定手段により大当り判定値と合致するという判定がなされたときに、大当り判定値と合致するという判定がされた始動条件の成立にもとづいて可変表示が開始される以前に、大当りが発生する可能性を予告報知するための報知演出を実行するか否かを決定し、前記始動条件成立時判定手段により大当り判定値と合致しないという判定がなされたときに、大当り判定値と合致しないという判定がされた始動条件の成立にもとづいて可変表示が開始される以前に、前記報知演出を実行するか否かを決定し、該報知演出を実行することに決定した場合に報知演出の実行回数を決定する演出決定手段と、

前記所定の記憶領域に 1 以上の数値データが格納されている場合に、識別情報の可変表示を開始可能になったときに、前記所定の記憶領域に格納されている数値データが大当り判定値と合致するか否かを判定することによって可変表示の表示結果を決定するとともに識別情報の可変表示を実行する可変表示制御手段と、

前記演出決定手段が前記報知演出を実行すると決定した場合に前記演出決定手段が決定した実行回数分の前記報知演出を複数回の可変表示において連続的に実行する演出実行手段とを含み、

前記演出実行手段は、前記実行回数分の前記報知演出の実行が完了する前に前記可変表示制御手段が可変表示の表示結果を前記特定の表示結果とすることに決定して可変表示の表示結果が前記特定の表示結果となった場合に、前記実行回数を初期化して以降の可変表

示において前記報知演出を実行せず、

前記演出決定手段は、前記実行回数分の前記報知演出が実行されていないことを条件に、前記報知演出を実行するか否かを決定する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

本発明による遊技機は、識別情報を可変表示可能な可変表示手段（例えば可変表示装置９）を備え、所定の始動条件（例えば、遊技領域に設けられた始動入賞領域への入賞）が成立したこともとづいて識別情報の可変表示を開始し、当該識別情報の可変表示の表示結果が特定の表示結果（例えば左中右図柄が同一の図柄）となったときに大当り遊技状態に制御する遊技機であって、始動条件が成立したときに、数値データ更新手段が更新した数値データを抽出する数値データ抽出手段と、数値データ抽出手段が抽出した数値データを所定の記憶領域に格納する数値データ格納手段と、始動条件が成立したときに、数値データ抽出手段により抽出された数値データが大当り判定値と合致するか否かの判定を行う始動条件成立時判定手段と、始動条件成立時判定手段により大当り判定値と合致するという判定がなされたときに、大当り判定値と合致するという判定がされた始動条件の成立にもとづいて可変表示が開始される以前に、大当りが発生する可能性を予告報知するための報知演出を実行するか否かを決定し、始動条件成立時判定手段により大当り判定値と合致しないという判定がなされたときに、大当り判定値と合致しないという判定がされた始動条件の成立にもとづいて可変表示が開始される以前に、報知演出を実行するか否かを決定し、報知演出を実行することに決定した場合に報知演出の実行回数を決定する演出決定手段と、所定の記憶領域に１以上の数値データが格納されている場合に、識別情報の可変表示を開始可能になったときに、所定の記憶領域に格納されている数値データが大当り判定値と合致するか否かを判定することによって可変表示の表示結果を決定するとともに識別情報の可変表示を実行する可変表示制御手段と、演出決定手段が報知演出を実行すると決定した場合に演出決定手段が決定した実行回数分の報知演出を複数回の可変表示において連続的に実行する演出実行手段とを含み、演出実行手段は、実行回数分の報知演出の実行が完了する前に可変表示制御手段が可変表示の表示結果を特定の表示結果とすることに決定して可変表示の表示結果が特定の表示結果となった場合に、実行回数を初期化して以降の可変表示において報知演出を実行せず、演出決定手段は、実行回数分の報知演出が実行されていないことを条件に、報知演出を実行するか否かを決定することを特徴とする。

そのような構成によれば、可変表示の開始前にその可変表示にかかわる演出として実行される演出の種類を多様・多彩とすることができ表現力豊かな、興趣に富む演出を行うことができる。